

YTMC ゆる鉄モジュール倶楽部

モジュール規格書

高速Nモジュール

超暫定版

平成 22 年 3 月 14 日

<http://wiki.livedoor.jp/ytmc/d/>

改訂履歷

超暫定版 (H22.03.14)

③【モジュールの長さ】長さ 630mm を基本。

【解説】台枠は Tomix コンビネーションボード A を使用し、両側に 15mm 幅の角材を付けて 630mm にするのが簡単です。(図-3 参照)。

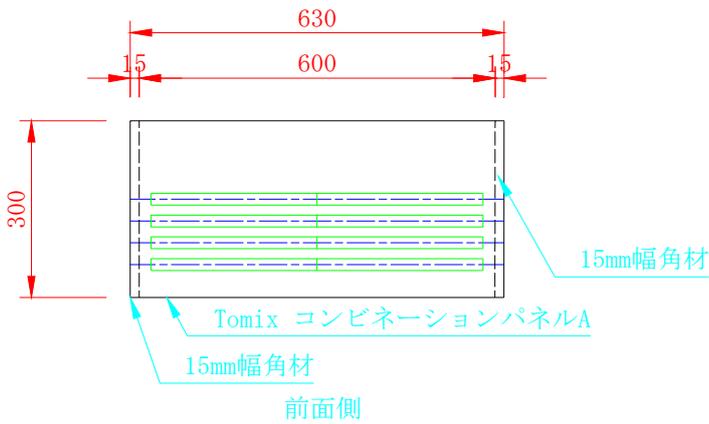


図-2 ガーター橋、トラス橋を組み込んだ線路の例

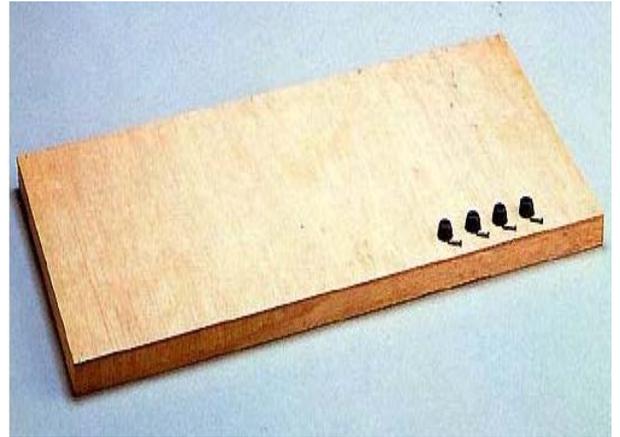


図-3 TOMIX コンビネーションボード A

④【モジュールの高さ】レール面高を 110mm とし、台枠の構造、寸法は自由。ただし、設置面の凸凹を吸収できるように ±10mm 程度微調整できる構造としてください。

【解説】レール面の高さのみの規格のため、図-4 のように、いろいろなタイプが考えられます。再現する情景、運搬、保管等の便を考慮して自由に選択してください。高さ微調整方法は自由ですが、図-6 のようなものが簡単で便利です(ゆる鉄モジュール倶楽部 HP モジュール製作用部品の互助会を参照)。

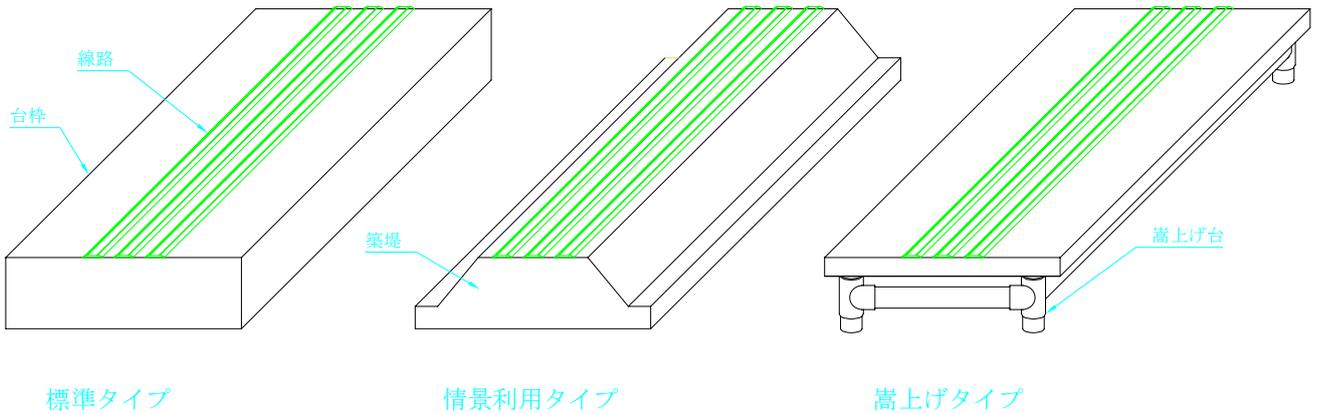


図-4 台枠の形状の違い



図-5 アジャスター金具



図-6 塩ビの水道管を使ったアジャスター金具

⑦【電圧降下対策】ピンプラグを使用し、台枠内に、き電線(補助フィーダー)を設置します。

【解説】電圧降下、ジョイナーの劣化による通電不良を防ぐため、台枠の下にき電線を設置して、線路と共に接続します。き電線は入手が容易な AV 機器に使用するピンプラグ(図-11)を用い、各線単独に右側にオス、左側にメスプラグを出すように設置します。ピンプラグは1番線を「赤」、2番線を「白」、3番線を「緑」4番線を「黄」とします。**線路の前面側をピンプラグの外側として統一してください。**

き電線の接続はモジュールの後ろ側で行い、台枠のより150mm以上の余長を確保してください。



図-11 接続用のピンプラグ (オス)

⑧【アクセサリ電源】ピンプラグを使用し、台枠内に、アクセサリ電源を設置します。

【解説】アクセサリ用電源として、専用のコードを、き電線同様に設置します。電源はDC12Vを使用。ピンプラグの色は「黒」とします。アクセサリ電源は使用しなくても、コードは設置してください。このアクセサリ電源はゆる鉄モジュールクラブ N ゲージバージョンの目玉?となりますので、皆さんの独創的なアイデアで楽しいモジュールとしてください。

⑨【制御方法】アナログ。

【解説】制御方法は現時点ではアナログのみ。

⑩【ポイント制御方法】基本的には手動。電動化はモジュール内に電源、スイッチを設け、単独で制御できるようにしてください。

【解説】モジュール式なので、全線のコントロールボードの製作は難しいため、手動としました。

⑪【モジュールの接続方法】直線レール S72.5 を使用します。